

整備作業進捗状況(2005年4月)

実施項目		実績 (4月)	予定 (5月)
旧核燃料試験研究施設整備	1. 試験設備の解体・撤去	(完了)	
	2. F棟、S棟の整備及び保管	一部を新保管庫へ移動、残りを引き続き保管	同左
	3. 施設E及びP建屋内除染	(完了)	
	4. 土壌等建屋周辺物の撤去及び保管	施設Eの跡地に残っている構築物などの撤去作業を実施	施設Eの跡地に残っている構築物などの撤去作業を実施。施設Eの建屋IVの解体撤去作業を実施。
	5. 施設E及びPの解体・撤去	(完了)	
	6. 周辺環境モニタリング	敷地境界での空間線量当量率及び空気中の放射能濃度の測定を実施	同左
	7. 新保管庫建設及び放射性廃棄物の保管	搬入済の放射性廃棄物を保管	同左
	8. その他	放射性廃棄物の量は、4月30日現在、200リットルドラム缶約150本、1.5m ³ 角型容器約2,750個、2m ³ 角型容器約830個(注1参照)。4月15日付けにて使用の変更許可を取得	(最終確認作業の残り(注2参照)は6月に実施予定)
所内全域調査	1. 所内全域の空間線量当量率測定	(完了。測定結果はボーリング地点の策定に利用)	
	2. 既存コアの放射線測定	(完了。測定結果はボーリング地点の策定に利用)	
	3. ボーリング調査	ボーリングコア採取、放射能測定作業を実施	同左
	4. 土壌のウラン・トリウム分析	ボーリングコアの分析作業を実施	同左

注1) 放射性廃棄物量を200リットルドラム缶換算で表示しますと、全体で約29,100本となります。なお、NDC社の放射性廃棄物量は、1.5m³角型容器で1,180個(200リットルドラム缶換算8,850本)です。

注2) 残っている作業は次のとおりです。

1. 施設Eの跡地の一部(ほぼ南側半分)でのボーリングコア採取とその放射能測定
2. 日本分析センター殿による施設E及び施設Pの跡地での空間線量当量率測定
3. 日本分析センター殿によるボーリングコア採取試料のウラン及びトリウム含有量分析